

新約聖書ギリシア語を現代語式発音で 教えることについて（二）： 大阪聖書学院

杉山 世民

私自身は、いわゆる新約聖書のコイネー（キニー）ギリシア語からギリシア語の世界に入った者であるが、1989年から1990年にかけて約1年ほどアテネ大学の神学部の寮に入らせてもらって、アテネ大学外国語講座（レスヒ）で現代ギリシア語を学んだ。その時、日本からアテネに持って行った関本至先生の『現代ギリシア語文法』を、ほとんど一冊、一字一句、丸まま写すかのように学んだのをなつかしく思い出す。とにかく、新約聖書のギリシア語から入った私自身にとって現代ギリシア語の語彙の多さには舌を巻いた。

アテネへ行って間もなく、私は、大阪の家族に手紙を出すために便箋を買いに近くの文房具店に向かっていた。するとカバンを持った小学生1、2年生ぐらいの女の子が、私の姿を見て何やら早口で話しかけていた。耳をすませて必死に何を言おうとしているのか理解しようとしていたのであるが、よく分からなかった。ただ、その女の子がἀπέθαντι という言葉を何回も使っていることに気付いていた。この言葉はパウロが、昔、書いたローマ人への手紙3：18で οὐκ ἔστιν φόβος θεοῦ ἀπέθαντι τῶν ὀφθαλμῶν αὐτῶν 『彼らの目の前には、神に対する恐れがない。』と使った言葉であった。よく聞くと、その女の子は自動車の流れの激しい通りを横断して向こう側（ἀπέθαντι）へ渡りたいのであるが、手伝って欲しいという事であった。私は、自動車の流れの途切れた時を見計らって、Τώρα！と声を掛けて道路の向こう側に渡してあげた。彼女は、元気な声で Εὐχαριστῶ！と言って去って行った。不思議な体験であった。

紀元1世紀にパウロが使った言葉を20世紀の、それも10才になるかならないかの少女が、日常会話に使っているのを耳にして大変感動したものである。

その感動を押さえながら、文房具屋さんに入り、「書簡用の『紙』を下さい。」と言おうとして χάριτης と言う言葉を使ったのだが、「地図」と理解されたらしく、「ああ、χαρτί でしょう。」と店の人に訂正されてしまった。このように新約聖書のギリシア語を現代語式の発音で学ぶ事は、ギリシア語を生きた言語として学ぶ上で極めて有益であるだけでなく、楽しさもある。

現在、大阪聖書学院の教室では、三人の若者に新約聖書ギリシア語を教えているが、文法書は、長年、大阪聖書学院で教鞭を執っておられる織田昭先生の『新約聖書ギリシア語文法書』を使用している。織田昭先生は、亡くなられた関本至先生の知己でもあるが、この文法書が出版される時には、関本先生が、推薦文を書いて下さることになっていた。経済的事情で、まだ出版を見ないが、残念であったと思っている。辞書も、やはり、織田先生が編纂された『新約聖書ギリシア語小辞典』があり、これを大いに用いている。

新約聖書のギリシア語の語彙は、現代ギリシア語ほど多くはない。Bruce M. Metzger, *Lexical Aids For Students Of New Testament Greek*, 1990 によると新約聖書には、5,436 語の異なる単語が用いられており、この内、3,246 語が1度～3度しか使われていないと言う。しかも、新約聖書ギリシア語に使われている単語の総数は、137,490 語らしい。五千語を少し越える位の語彙数しか無い新約聖書ギリシア語から現代ギリシア語を学ぼうとしたのであるから、その語数の豊富さに舌を巻いたのも無理は無いのかもしれない。

しかし、イエス・キリストの福音が、この極めて表現能力の豊かな、そして、本当に美しい言語に盛り込まれ、ギリシア語の世界に浸透して行った事実の中には、意味深いものがあると思う。大阪聖書学院の卒業生の中には、ギリシア語の美しさに魅せられて、卒業してギリシアへ行って学びたいという思いにかられて、ギリシアへ行った者もいる。言語は、意志伝達の道具ではあるが、同時に、思想、文化でもある。アリストテレスは、アレキサンダー大王の家庭教師であつたらしいが、アレキサンダー大王は、ペルシャ王ダリヨスが、宝石箱として使っていた箱にホメロスの作品を入れて遠征したと言う。ギリシア語は確かに美しい。シュリーマンは、この言語の魅力にのめり込みそうになるのを恐れて最後に学ぶ言語にしたと言う。私は、ギリシア語を通して何を学ぶかが重要な問題であると思っている。私自身は、この言語から、生きた人間を媒体

として語られ続けて来た、世界の何ものよりも美しいキリストの福音を学んだ者の一人である。だからこそ、私は、ギリシア語を、そして、ギリシア人をも、こよなく愛している者の一人なのである。